



★「持続可能な学校の実現に向けた教育課程編成の好実践に係る情報交換会」を報告します！



2年目になりました「持続可能な学校のあり方を探る実践モデル校」事業ですが、10月11月に計4回オンラインで情報交換会を実施しました。参加校はモデル校を含めると、昨年度の**約3倍の約100校**の教職員の皆さんが参加されました。多くのご参加、ありがとうございました。
「質の高い学び」と「持続可能な学校」の両立を目指す取組の関心の高まりを感じます！

令和4年度モデル校の取組一覧

モデル校の取組も学校それぞれなんだね。



学校名	1コマ45分授業	短時間モジュールの柔軟な活用	その他の工夫
根岸中学校	◎	◎	教職員の状況等に配慮した時間割、専門性を生かした教科の細分化
学校名	午前中集中型 40分×午前5コマ	短時間モジュールの柔軟な活用	その他の工夫
青木小学校			休み時間の検討、働き方アンケートの活用など
あざみ野第二小学校	◎		計画年休、19時まで退勤の実施など
伊勢山小学校	◎		週案の工夫、高学年教科分担任制など
今宿小学校			採点方法の工夫、予備時数の大幅な削減など
牛久保小学校	◎	◎	放課後の予定の固定化、並びに会議等15:30開始
大岡小学校		◎	授業時数特例校、会議の曜日固定化など
釜利谷南小学校			40分、50分授業の活用など
川井小学校	◎		全教員を2部会に分けた組織改革など
川上北小学校	◎	◎	「持続可能な学校づくりを考えるワーキング」の実施など
さわの里小学校	◎		授業改善タイムの導入、Googleドライブの活用など
獅子ヶ谷小学校	◎		休み時間の時間差設定、会議の精選など
菅田の丘小学校		◎	学校づくりワーキングの実施、業務のアウトソーシングなど
高舟台小学校			行事の工夫や時数の再検討など
茅ヶ崎東小学校			学校だより・学年だよりの工夫、マイワークシートの活用
つづきの丘小学校	◎		時間を生み出す工夫と効果的な活用など
奈良小学校	◎	◎	行事等の精選、会議のタイムマネジメントなど
羽沢小学校		◎	福祉作業所との連携による清掃作業など
富士見台小学校			全学年教科分担任制、保存文書のシステム化など
六浦小学校			会議の精選、定時退勤日の導入など

教育課程編成を組織的に考え実践することは、児童生徒や教職員にとって有効！

モデル校教職員アンケート結果より ※391人の回答

Q 柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントのもと、児童生徒はいきいきと活動していますか



肯定的意見 58.5%

Q 勤務時間内に裁量のある時間は増えましたか



肯定的意見 67.7%

Q 柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントには、ICT機器の活用が有効だと感じますか



肯定的意見 84.9%

モデル校から…取り組んでみて、課題も出てきた！

- ・質の高い学びに向けた授業改善が、まだまだ課題。
- ・まだ慣れていないからか、児童生徒の活動時間の確保が難しい。
- ・学ぶ時間の確保のために、さらに何が精選できるか検討が必要。
- ・情報共有のあり方を組織的に考える必要がある。
- ・裁量ある時間の使い方に、教職員一人ひとりに差がある。 など

モデル校の詳しい取組はこちら



モデル校の日課表はこちら



情報交換会参会者の振り返りで、ご意見の多かった項目

自校の学校運営に生かしていきたいこと

- 1 日課の工夫の検討 (38人)
- 2 校内検討の機会の創出 (18人)
- 3 会議の精選・放課後の使い方 (15人)
- 4 意識改革・職員研修 (11人)
- 5 ICTやクラウドの活用 (8人)
- 6 教科分担制・チーム学年経営 (4人)

もっと知りたいと思ったこと

- 1 年間授業時間数のカウントについて (14人)
- 2 更なる情報交換についての要望 (10人)
- 3 モデル校の資料の共有についての要望 (10人)
- 4 40分授業(中学校45分授業)の具体 (10人)
- 5 教職員の意識改革 (5人)
- 6 ICTの活用 (4人)



当日は、モデル校の取組を聞いて、参加者からもっと知りたいと多くの質問があり、後半のブレイクアウトルームではたいへん活発な意見交換となりました。管理職の方だけではなく、多くは主幹教諭の方々が参加され、次年度に向けての検討に生かしていきたいなど、前向きなご意見をたくさんいただきました。

事務局への質問に回答させていただきます。

40分授業(中学校45分授業)を可能にさせる文章は、どこに載っているのか。

A 小・中学校それぞれの学習指導要領解説総則編(小学校はP62~63、中学校はP63~64)において、「④ 授業の1単位時間」として、「(ア)各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童(生徒)の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること」とされており、それに基づき40分授業を実施しています。

横浜市全体として、40分授業(中学校45分授業)を進めていく方針なのか。

A 「授業の1単位時間」は、各学校において学校長の責任のもと適切に定められるものであり、学校の自主性を尊重する観点でも、市として一律には40分授業(中学校では45分授業)を進めておりませんが、実施校の児童生徒からは「40分授業になったおかげで、一つひとつの授業に集中しやすくなった」、教職員からは「時間のゆとりが気持ちのゆとりにつながり、丁寧に児童理解や対応にあたることができるようになった」等の前向きな声もあります。40分授業は、教職員が裁量のある時間を確保するための手段の一つですので、「質の高い学び」と「持続可能な学校」の両立を進める中で各学校の判断で導入を検討していただければと思います。事務局としても引き続き、取り組みたい学校に対し、情報共有等を通じて支援していきます。



「持続可能な働き方を目指して」2年目校長研修・管理職選択研修の3回目、12月9日(金)に花咲研修室で行われました。その中から2校の取組を紹介します。



よこはま ONE TEAM 賞エントリー校の取組

荏田東第一小学校



課題

- ・毎月一定数、時間外在校等時間80時間超の教職員がいる。
- ・校内の授業研究や研修に対して、負担感を感じる教職員が多い。

【具体的な取組】

- ・指導案形式自由で講師は招聘しない
- ・低中高学年ブロック内での授業の見合いを柱として、各人が設定した研究主題による研究授業

教員の研究姿勢が積極的・主体的かつ軽やかになった

今年度、80時間超の時間外在校等時間の教職員0人

一人年間3回の授業公開を無理なく実施

ストレスチェック「働きがい」の項目で昨年度より一層改善された

休み時間に、日替わりで3~7人ほどの担任が校庭で子どもと元気に遊ぶようになった



予定管理ツールを活用したチャレンジ

大正小学校



「働き方分析ツール」による教職員の実態把握

- 学ぶ時間の確保が十分ではない
- 月に3~4日、休日出勤する職員が23%
- 71%の教職員が「お互いに助け合う雰囲気がある」と回答
- 81%の教職員が「職場に業務の効率化を奨励する雰囲気がある」と回答

【具体的な取組】

- ・配付物の電子化
- ・自動採点ドリルの導入
- ・予定管理ツールの導入 など

~ Trello (トレロ) ~

- ・退勤予定時間を設定し見える化
- ・業務の見える化

成果や課題も…朝にゆとりの時間がある教職員には好評
入力するくらいだったら仕事したほうが…という意見も

令和3年度と4年度の11月比較

時間外在校等時間が減少した教職員は **25人中18人(72%)**

昨年度に比べて **1人あたり平均約7時間の削減**

~先生のHappyが子どもの笑顔をつくる~